

令和6年度

「中小企業の診断及び助言に関する実務の事例Ⅳ」の出題の趣旨

第1問（配点25点）

（設問1）

D社と同業他社の財務諸表を利用して、診断及び助言の基礎となる財務指標を算出する能力を問う問題である。

（設問2）

設問1で算出した財務指標をもとに、D社の財務的特徴を読みとる能力を問う問題である。

第2問（配点20点）

（設問1）

与えられた条件をもとに、線形計画法を用いて、X社向け及びY社向けの最適な生産数量を算出する能力を問う問題である。

（設問2）

Y社に対する最低限の販売数量が決まっており、価格の引き上げが可能という条件を追加した上で、Y社の希望を満たすためには、Y社に販売する製品の販売価格を何円以上に設定すればよいかを算出する能力を問う問題である。

第3問（配点30点）

（設問1）

与えられた条件をもとに、初年度および2年度のキャッシュフローの更新前と比べた増加額を算出する能力を問う問題である。

（設問2）

複利現価係数と年金現価係数を用いて、新機械の試験的導入の正味現在価値を算出する能力を問う問題である。

（設問3）

コストをかけて市場調査を行った結果、将来の業績に関する情報が得られたという条件を追加した上で、高業績になる確率と低業績になる確率から正味現在価値の期待値を算出し、投資案を実行すべきかを判断する能力を問う問題である。

第4問（配点25点）

（設問1）

振替価格として全部原価に一定割合の利潤を加えた価格を用いた場合、事業部の業績評価を行う上でどのような問題が生じるかを問う問題である。

（設問2）

設備投資に関して社長が実質的な意思決定権限を持っている場合、財務指標を用いて事業部長の業績評価を行う際の留意点を問う問題である。

以上